

## 共に生き 共に咲かせる 幸せの花

2018(平成30)年7月20日  
四日市大学 小林 慶太郎

### 1. 地域社会の多様化の時代を共に生きる

#### (1) 高齢化の進行や障がい者数の増加

長久手市においても確実に進行する高齢化

障がい者の数は全国的に増加傾向

→ 次世代に豊かな自然とよりよいまちを引き継ぐ責任をどう果たすか？

#### (2) 価値観やライフスタイルの多様化

様々な文化的な背景を持つ人が、同じ市内で共に暮らしている

情報のパーソナル化が進んでいる

生活時間などが異なる様々なライフスタイルの人がいる

#### (3) 多様性を受け容れて共に生きるということ

自分と違う意見を  
持つ他者の多様な  
価値観を認め合う  
ということ

わたしたちは、多様性と個人の自由を認め合う懐の深さと、自分の言葉と行動に対する責任を持ちます。そして、次世代に豊かな自然とよりよいまちを引き継ぎ、みんなで手を取り合っ  
て、誰もが笑顔で暮らせる幸せなまち長久手市をつくりあげて  
いきます。(長久手市みんなで作るまち条例 前文より)

### 2. 共に取り組むまちづくり

#### (1) 多様性の受容 (Diversity & Inclusion) が拓く未来

ダイバーシティ経営・・・経済産業省「新・ダイバーシティ経営企業100選」

多様性と個人の自由を認め合う懐の深さ



誰もが笑顔で暮らせる幸せなまち

## (2) 新しい公という考え方

高齢化 → 社会保障関係費の増大 = 行政の支出の増大  
高齢化 → 働き盛りの世代の減少 → 行政サービスの元手（税金）の減少  
市民の多様化 → 市民のニーズも多様化

“あれもこれも” 全部役所まかせにするのは不効率だし非現実的。そこで・・・

### 新しい「公」の概念

個人の価値観がより自由や多様性を求めるようになると同時に、個人の自己責任意識が高まる。こうした意識変化が進むと、「公」のことは「官」に任せればよいとの風潮が薄れ、個々人が社会全体に貢献しようという新しい「公」の概念の確立につながる。

(経済審議会『経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針』1999年)

これまで官（行政）の独占物と思われてきた「公」を民も担うという発想  
民（住民・地縁組織・NPO・企業等）を、公共性の重要な担い手と捉える

## (3) 補完性の原理

やるべきことは“あれかこれか”・・・役割分担の見直し

### 補完性の原理

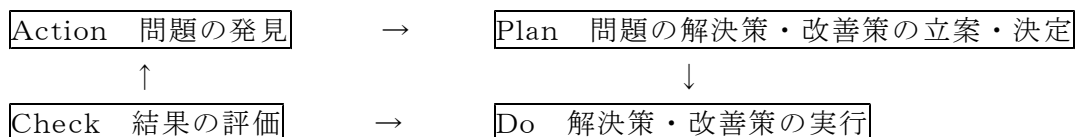
役割分担を考える上での理念

- ・出来るだけ小さな単位で出来ることは小さな単位でやる
- ・小さな単位で出来ないことはより大きな単位が補完する という考え方

## 3. みんなで幸せの花を咲かそう！

### (1) みんなの対話で まちの課題について 考えよう

P D C A サイクル



やれる人 やりたい人から やれることを！

### (2) 他のまちの事例から考える

#### ① 地域活動団体の取組み ～刈谷市小垣江地区～

消防OBや元看護師・建築士など、地域の人材を発掘し、徹底した防災訓練を実施

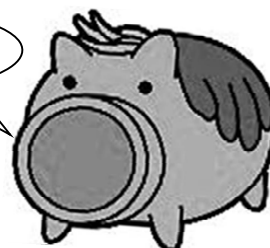
- ・車いすの人の避難誘導訓練
- ・倒壊ブロック塀からの救出訓練
- ・A E Dや即製担架などを用いた救護訓練
- ・可動式ポンプ車等を用いた消火訓練
- ・仮設トイレなどを設ける避難所運営訓練
- ・プールの水の浄化を含む炊出し訓練
- ・防災〇×クイズを実施し上位20名には景品進呈 など

## ② 市民活動団体の取組み ～四日市とんてき協会～

まちへのマイナスイメージを払拭するために、ご当地グルメを活用して魅力発信

- ・四日市とんてきマップの発行
- ・マスコットキャラクター“テキブ〜”の決定
- ・公認ソース等の開発監修
- ・一般社団法人化
- ・各種関連商品の主な開発監修

テキブ〜



寿がきや：四日市とんてきのたれ

サークルKサンクス：四日市とんてき弁当・四日市とんてきおにぎり

近鉄百貨店：三重県産さくらポークと公認ソースをセットにしたギフト

山信食品：四日市とんてき冷凍

サークルKサンクス&井村屋：四日市とんてき饅頭

ファミリーマート：四日市とんてき弁当

日本ピュアフード(株) 四日市とんてきスティック（冷凍・冷蔵）

山崎製パン：ランチパック四日市とんてき風

ほっともっと：四日市とんてき丼

- ・各種イベントへの出展

ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」への出展 など

- ・メディアで報道して貰うことでの四日市のPR ← 広告費に換算したら…



## ③ まちづくり組織の取組み ～知多市南粕谷コミュニティ～

- ・南粕谷元気会

「皆出てきてコミュニケーションを図り、元気でいよう」がスローガン

60歳以上が対象、毎月第1・3木曜日開催、参加費200円

<開催進行事例>

挨拶→歌→手話体操→ラジオ体操→頭の体操→大笑い→お茶と会話→行事→大笑い→散会

他に、ウォーキング、季節の料理、花見、折り紙教室 など内容は様々

- ・南粕谷おたすけ会

相談役(ボランティア)が、依頼に応じて、サポーター登録した住民を派遣

お助けメニュー：買物支援・病院搬送、日曜大工、庭木の手入れ 等 多様  
1時間ごとに200円

- ・南粕谷ハウス

管理費100万円/年（家賃+光熱費）

寄付金や、バザー、チャリティ鍋、イベント広告などで始動

カフェを開設しているほか、独居高齢者向けモーニングやワンコイン居酒屋

### (3) 「みんなでつくるまち条例」を活かして

どうしたら、幸せなまち＝(特に子どもたちの)笑顔あふれるまちを実現できるか？

主体的に 多様性を尊重しながら対話し、手を取り合って取り組んでほしい

(以上)